

2017年  
11月7日  
火曜日

田 禾 教授 (人文科学、中国語学)

# China in

中国の大学キャンパスは広いた

め、寮、教室、図書館、食堂の間の移動は非常に時間がかかる。自転車を利用する学生が多いが、盗難事故や卒業後の処理などの問題で、自転車は大学生生活の悩みの一つでもある。この問題を解決するにあたって、「シェア自転車」が出てきた。

自転車のサドルの下にあるQRコードをアプリで読み取って、鍵が開いて乗れるようになる。最初の1時間は無料で、それから、1時間ごとに費用が発生するが、料金が安く、盗まれる心配もなく、さらに駐車も非常に便利だ。今北京、上海などの大都市では、街のあちこちにシェア自転車置いてあり、誰でも利用できるようになってきている。2014年北京大学卒業生が創業してキャンパス内から社会全体に広げたシェアサービスは益々人気が高まって、中国はシェアエコノミー大国になっている

とも言える。

シェア自転車のきっかけで、中国人のシェア意識も高まる一方である。様々な分野で、いろいろな形で資源をシェアして他人と共有することとはごく普通になっている。交通手段から言うと、「相乗り」の「順風車」はサラリーマンたちを満員電車から救うありがたい存在だ。自動車通勤する人と同乗したい人をマッチングするアプリは中国人の安いコストで楽に通動をしたいという合理的な考えにより生まれた結果だと思われる。13億人の大きい国で、やはり共有する、シェアすることはある意味で仕方がないとも言える。つまり、シェアリングは自分のある程度の生活レベルを保障する一つの手段でもある。住むこともシェアエコノミーにかかわる。実は、現在の中国人にとって一番困るのは住宅の問題だ。若い夫婦と子供の三人家族の総収入

の40%ぐらいは住宅ローン返済に使われる。北京ではもっと高く、外来人口や低収入者は殆ど買えない。

「所有権シェア住宅」はこの背景の下に登場した新しい提案だ。例えば1000万円の住宅、個人と政府は半分ずつ支払する。このように住宅所有権を個人と政府はシェアして共有することになるが、個人は部屋を自由に使用できる。もちろん、残り半分の購入金が揃えば、完全に個人所有することも可能だ。こうすると、住宅市場のみに有利ではなく、マイホーム購入できない若者や、低収入層にも有難いやり方だ。大きいもののシェア以外に、「ともに楽しむ」との目的の生活用品のシェアが様々ある。「シェア台所」や「シェアKTV」、「シェアスポーツジム」など。しかし、シェアエコノミーは無料で提供するサービスと異なるのはものを提供する側が「利益をもら

う」ということだ。完全に社会貢献、相手のことだけ考えるサービス例え

ば、銀行や店の入り口に無料で借りられる傘など、中国にもある。「シェア充電器」、「シェア傘」は完全に無料に利用するものではなく、使用料がかかるものだ。大学には「シェアバスケットボール」は使用料かかる。これらの「シェア」は実際「レンタル」そのものだ。最近一番注目されるのは「Medical Mall」だ。医療設備と医者の共有することはとても合理的で、患者にとって早く、安く診査してもらえたいことはとてもいいことだが、医療事故発生すると速やかに責任追及などの問題解決できるかどうかは心配するところだ。

個人の生活と共に、中国の国の政策である「一带一路」も資源、技術などを周辺の国々とのシェアリングだ。